

御来賓の方々 ～ごあいさつ抜粋～

群馬県知事 大澤 正明 様



結成以来25年にわたるご尽力に、心より敬意を表します。また、県民アンケートをもとにした貴重な提言を受け止め、県政に反映していきたいと考えております。

さて、本県は、円安による原材料や燃料費の高騰など、厳しい業種もある訳であります。緩やかな回復基調をたどっています。また、富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録をはじめ東毛広域幹線道路の全開通、北陸新幹線の金沢への遠心と本県が大きく飛躍するための要件が整ってきている状況にあります。

一方で将来を見渡すと、若年女性の大都市への流出がもたらす人口減少が大きな課題となっており、群馬の未来創生本部を設置し群馬ならではの新しい発想のもとで、市町村などと連携しながらスピード感を持って、効果的な政策を出していきたいと考えています。

また、高齢人口の増加や新たな雇用の創出をはかり、経済の活性化と雇用の安定をしっかりと取り組むため、コンベンション施設の整備を進めてまいりたいとも考えており、今後とも県政に対しまして、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

厚生労働省群馬労働局 局長 内田 昭宏 様



我々労働行政の責務というのは、働く方々を守り、そして安心して働いていただける職場づくりをしていく、その意味で働く方々の代表である労働組合、特に連合群馬は、最も重要なパートナーだと思っています。

今、群馬県下、労働を巡る課題は非常に山積しており、特に、労働災害が非常に多発、初めて死亡災害多発の緊急事態宣言を出し、色々と取り組みを進めているが中々これを撲滅することが出来ない状況にあります。

また、地方創生を進めるうえには、やはりそれを担う人材の確保、人材流出の防止というのは不可欠です。

群馬県ならではの、他の県との競争に負けないような工夫も必要になってきています。

このように労働をめぐる課題解決は、連合群馬の役割が非常に期待されており、今後とも課題解決の先頭に立って、様々な取り組みお願いいたします。

大変おつかれさまでした（退任役員の方々）



一社 群馬県経営者協会会長 児玉 三郎 様



日本経済ですが、アベノミクスは第3の矢、経済成長戦略の段階に入っていますが、今までの勢いはなく、踊り場にさしかかってきているのではないかと感じています。

特に、日本の本来の姿である、ものづくりと貿易立国の日本が、貿易赤字。また、1千兆円を超える国の借金と非常に問題であると考えています。なかなか難しい課題だが、“窮すれば変ず 変ずれば通ず” 困ったら、変化をしていかないと、組合活動も会社の営業活動も、だめになってしまう。

国は支援とサポート。労働者は協力と強調、経営者は指針と決断。指針を出さないと従業員が何をすべきか迷ってしまう。公労使が力を合わせて日本を立て直しましょう、と申し上げます。

第14期活動方針

2020年までに実現をめざす「働くことを軸とした安心社会」「1000万連合」「男女平等参画社会」「stop the格差社会」等を受け、7項目のテーマを据えて力から強く活動を展開！

<主な取り組み>

- ①1000万連合の取り組みを柱に集团的労使関係の構築をめざす『組織拡大・強化』
- ②地協再編と顔の見える運動の強化に向けた『地域に根差した活動』
- ③格差是正と働きやすい職場づくりに向けた『労働条件の底上げ』
- ④すべての県民が安心して暮らせる地域社会に向けた『政策・制度要求実現』
- ⑤政策・制度要求実現のための統一地方選勝利に向けた『政治活動』
- ⑥恒久平和・災害宅策など『支えあい、助け合う社会づくり』
- ⑦あらゆる分野における『女性や若者の連合運動への参画促進』

質疑・答弁

白石代議員：医療・介護従事者の厳しい労働

環境や人材不足の中「医療介護総合推進法」により、特定行為を行える看護師の養成など、新たな負担を求めている。

また、「医療勤務環境改善支援センター」の設置を進めているが、連合内に設置をとの声がある。連合群馬内に「医療福祉連絡会」を設置し、産別の垣根を越えた医療・介護の情報交換の場を設置してほしい。

超高齢化を迎える中で、医療・介護の人材確保は重要。「医療勤務環境改善センター」を連合が担うには、多くの課題が山積しており、本部を含め現状では難しい。しかし、運営にあたっては、労働者代表の参画など意見反映ができるよう取り組む。

医療・福祉連絡会は、他県の状況や情報を収集し検討します。



上段左から
鈴木誠副事務局長、山岸稔、八木田恭之、小川剛、羽鳥宏一、丹野隆行、高草木郁夫、渡辺聡、吉岡圭一、飯塚弘光、白石健志、深澤栄子執行委員、井田尚宏会計監査